

瀧澤弘和の著作

<論文>

Aoki, M. and H. Takizawa (2002), "Information, Incentives, and Option Value: The Silicon Valley Model," *Journal of Comparative Economics*, Vol. 30, pp.759-786.

Takizawa, H. (2003), "Coordination Costs and the Optimal Partition of a Product Design," *RIETI Discussion Paper Series 03-E-014*.

Takizawa, H. (2003), "Property Rights and the New Institutional Arrangement for Product Innovation in Silicon Valley," *RIETI Working Paper Series 03-E-009*, (to be published as a chapter in *Ownership and Governance of Enterprises: Recent Innovative Developments*, Palgrave/Macmillan).

Aoki, M. and H. Takizawa (2002), "Understanding the Silicon Valley Phenomena," *WIDER Discussion Paper No. 2002/11*, WIDER, United Nations University.

Aoki, M. and H. Takizawa (2002), "Incentives and Option Value in the Silicon-Valley Tournament Game," *RIETI Discussion Paper Series 02-E-001*.

瀧澤弘和(2002), 「シリコンバレー・モデルと生産物システムのモジュール化」, 東洋大学グローバル・エコノミー研究センター 『経済研究年報』 第 27 号, pp.83-121.

瀧澤弘和(2002), 「モジュール化とデザイン組織の分割」, 東洋大学経済研究会 『経済論集』 第 27 巻 , pp.193-211.

瀧澤弘和(1999), 「異なるタイプを伴うマッチングと遠視的提携安定性」, 東洋大学経済研究所 『経済研究年報』 第 24 号, pp.75-86.

清水崇・瀧澤弘和(1998), 「手続き的合理性, ナッシュ均衡, 着目点」, 『三田学会雑誌』, 慶応義塾経済学会 , pp.104-106 .

瀧澤弘和(1998), 「情報通信革命と企業・市場・社会」, 東洋大学経済研究所 『経済研究年報』 第 23 号, pp.41-63.

Shimizu, T. and H. Takizawa (1997), "An Algorithmic Approach to the Foundations of Nash Equilibrium," presented at the 15th Arne Ryde Symposium on Focal Point.

Takizawa, H. (1996), "Bounded Rationality in Game Theory," Information Processing Society of Japan, Proceedings Vol.96, No.105, pp.27-36.

<本・報告書の章>

瀧澤弘和・今村肇・小苺米清弘(2003), 「企業システム(1)---ICT 革命 ,企業統治 ,雇用戦略」, 所収:植草益編『社会経済システムとその改革:改革の方法を問う』,NTT 出版, pp.247-286 .

瀧澤弘和(2002), 「モジュール化の非インセンティブ理論」, 所収:池田信夫・奥野正寛編著『情報化と経済システムの転換』, 東洋経済新社, pp.69-93 .

平成 14 年度内閣府経済社会総合研究所委託調査報告書『実験経済学リファレンス:実験経済学手法の革新とその成果』(船木由喜彦, 川越敏司・濱口泰代氏と共著), 社団法人・経済企画協会, 2003 年 3 月 .

青木昌彦・奥野正寛編著(1996), 『経済システムの比較制度分析』, 東京大学出版会(序章, 2 章, 3 章, 11 章, 13 章を分担執筆) .

<進行中の論文>

Aoki, M. and H. Takizawa (2003), "Modularity in Industrial Architecture: Its Relevance to Efficiency and Innovation Capability," mimeo. RIETI.

Kawagoe, T. and H. Takizawa (2002), "Instability of Babbling Equilibria in Cheap Talk Games: Some Experimental Results," mimeo, Toyo University.

Takizawa, H. (2000), "The Cost of Troubleshooting and Modularization," mimeo. Toyo University.

<訳書>

青木昌彦(2001), 『比較制度分析に向けて』, NTT 出版(谷口和弘氏と共訳) .

<その他>

瀧澤弘和(2003),「モジュラー・アーキテクチャーのインプリケーション」,『経済産業ジャーナル』4月号, pp.46-49.

瀧澤弘和(2002),「マシーン・ゲーム」(『認知科学事典』,共立出版).

瀧澤弘和(2002),「フォーカル・ポイント」(『認知科学事典』,共立出版).

瀧澤弘和(1998),「ゲーム理論ブックガイド」,週刊ダイヤモンド 1998/4/25号, p.92.

瀧澤弘和(1998),「比較制度の経済学---経済の多様性と進化に踏み込む」,所収:アエラムック(38)『新経済学がわかる』,朝日新聞社, pp.65-70.

瀧澤弘和(1997),「ゲーム理論が開く新たな可能性」,『経済セミナー』1997/5月号,日本評論社, pp.36-39.

奥野正寛・瀧澤弘和(1996),「いま,なぜ比較制度分析か」,『経済セミナー』1996/3月号,日本評論社, pp.6-12.

<書評>

瀧澤弘和(2003),松井彰彦著『慣習と規範の経済学』の書評,『経済セミナー』2003年4月号,日本評論社, p.119.

瀧澤弘和(1998),リチャード・セイラー著『市場と感情の経済学』の書評,週刊ダイヤモンド 1998/3/21号, p.120.

瀧澤弘和(1998),金子郁容・松岡正剛・下河辺淳著『ボランタリー経済の誕生』の書評,週刊ダイヤモンド 1998/2/14号, p.95.

瀧澤弘和(1998),パール・ミルグロム=ジョン・ロバーツ著『組織の経済学』の書評,週刊ダイヤモンド 1998/1/17号, p.67.

瀧澤弘和(1997),伊藤邦武著『人間的な合理性の哲学』の書評,週刊ダイヤモンド

1997/11/15号, p.57.

瀧澤弘和(1997), 中山幹夫著『はじめてのゲーム理論』の書評, 週刊ダイヤモンド 1997/10/18号, p.127.

瀧澤弘和(1997), マレイ・ゲルマン著『クォークとジャガー』の書評, 週刊ダイヤモンド 1997/9/20号, p.122.

瀧澤弘和(1997), 茂木健一郎『脳とクオリア』の書評, 週刊ダイヤモンド 1997/8/16,23 合併号, p.89.

瀧澤弘和(1997), ネイルバフ＝ブランデンバーガー著『コーペティション経営』の書評, 週刊ダイヤモンド 1997/7/19号, p.78.

瀧澤弘和(1997), スティーブン・ピンカー著『言語を生み出す本能』の書評, 週刊ダイヤモンド 1997/6/14号, p.68.

瀧澤弘和(1997), 池田信夫著『情報通信革命と日本企業』の書評, 週刊ダイヤモンド 1997/5/17号, p.67.

瀧澤弘和(1997), カール・ジグムンド著『数学で見た生命と進化』の書評, 週刊ダイヤモンド 1997/4/12号 p.131.